

こんにちは

庄内町議会

です



No.59
9月議会号
30.10.20



7月15日
消防操法大会

庄内町消防団
関連記事P22

- ◆ 条例否決し 補正予算可決 〈補正予算〉 2
- ◆ 自主財源増え 黒字決算 〈決算〉 4
- ◆ 検証して未来に生かす 〈決算特別委員会〉 6
- ◆ 12人の議員が町政をただす 〈一般質問〉 12
- ◆ 町政を知る近道 〈議会傍聴〉 21

条例

子育て応援住宅 否決

補正予算を後回し 条例案を先に審議

通常、議会では各議案の前に補正予算を審議します。

ところが、補正予算には、多くの予算が一括で含まれています。その中の一つの事業を否定する際は、予算全体を否決しなければなりません。これが我々議会のジレンマです。

今回は、子育て応援住宅事業で、賛否が分かれることが予想されました。

そこで、補正予算の前に同事業の条例案を審議しました。先に審議された条例案が、もし否決された場合、後の補正予算を可決しても関連する予算は現時点では執行されません。

今回は、全体を否決して補正予算に含まれる豪雨被害の災害復旧を遅らせてはならないとの思いから、このような対応をしました。

事業の概要(町の説明)

目的

○町内外から子育て世代の移住者を増やし、人口減少対策とする。

○減少傾向にある第四小学校の児童数を増やす。

手法

○住宅(16戸)を事業費4億3000万円で民間業者が建設、それを町が月額112万円で借り受ける。

○契約が切れる30年後は町に無償譲渡される。

収支

○稼働率70%の家賃収入と、町外から転入してくる人の住民税等の税金で30年間で500万円の黒字になる。

主な質疑

問 この条例では、子どもがいらない夫婦も対象となり、人口減少対策の効果が期待できない。

答 子どもがいる転入者を優先することを考えたい。

問 本当に、この場所にてくるのか、町民からも不安視する声がある。

答 部屋は広い3LDKで高規格道路が開通したので転入者は

見込める。

問 これまでの若者定住の住宅は、一戸建てでも約1千500万円だった。今回のメゾネットで一戸約2千100万円は高額すぎる。

答 精度の高い試算ではない。プロポーザルしてみないと分からない。

問 30年の間、町の負担が契約上のリスク(業者が倒産するなど)はどうなるのか。

答 精度の高い試算ではない。プロポーザルしてみないと分からない。

答 検討中である。

問 南野グラウンドは、教育財産となっているが、地目を変更する必要があると思うがどうか。

答 町有地であることから、その必要はないと思う。

賛成した議員

石川武利
上野幸美
小林清悟
小谷勇保
澁谷
石川保

反対した議員

工藤範子
阿部勝利
長堀幸朗
齋藤秀紀
加藤将展
國分浩実
鎌田準一
五十嵐啓一
小野一晴

(今後の見直しについては
P.22のガス灯をご覧ください)

9月 定例会

9月4日～9月18日

議案

- ・条例設定 5件 (1件否決、内容P2)
- ・平成30年度補正予算 9件
- ・平成29年度会計決算 9件 (内容P6)
- ・契約締結 4件
- ・報告 2件

契約

新庁舎の関連工事スタート



- 役場本庁舎 電気設備工事
 - 契約金額 3億24万円
 - 契約の相手方 アベ・ハクヨウ特定建設工事共同企業体
 - 工期 平成32年3月23日まで
- 役場本庁舎 機械設備工事
 - 契約金額 2億6千784万円
 - 契約の相手方 可決
- 山空・梅木特定建設工事共同企業体
 - 工期 平成32年3月23日まで
- 役場大型車庫建設工事
 - 契約金額 1億4千40万円
 - 契約の相手方 (株) 狩川佐藤組
 - 工期 平成31年3月22日まで
- 賛否 3案件とも全員賛成で

補正予算

豪雨災害の復旧に1億7176万円



畑がぜんぶ水浸し

一般会計	補正額	主な内容
(2号・専決処分)	2660万円	豪雨災害復旧関連の追加
(3号)	1億8089万円	うち災害復旧に1億886万円
(4号)	3630万円	豪雨災害復旧関連の追加

8月の豪雨災害による被害に速やかに、かつ丁寧な対応とするために、専決処分を含めて3件の補正予算を賛成全員で可決しました。

災害復旧費等としての内容は次の通りです。

- 測量設計業務委託料
- 道路3、河川13、林道3、農業用施設3、農地1箇所
- 工事請負費等
- 道路1、河川12、林道11、農地9、農業用施設1箇所

今後、国の災害査定が終了次第更なる復旧工事に着手します。

決算 町の貯金は6年連続増加 借金は7年ぶり減少



余目まつり

貯金残高
町民1人当たり**24万円**
総額**52億9146万円**

ふるさと応援寄附金10億円超
黒字に貢献

一般会計

賛成多数で認定

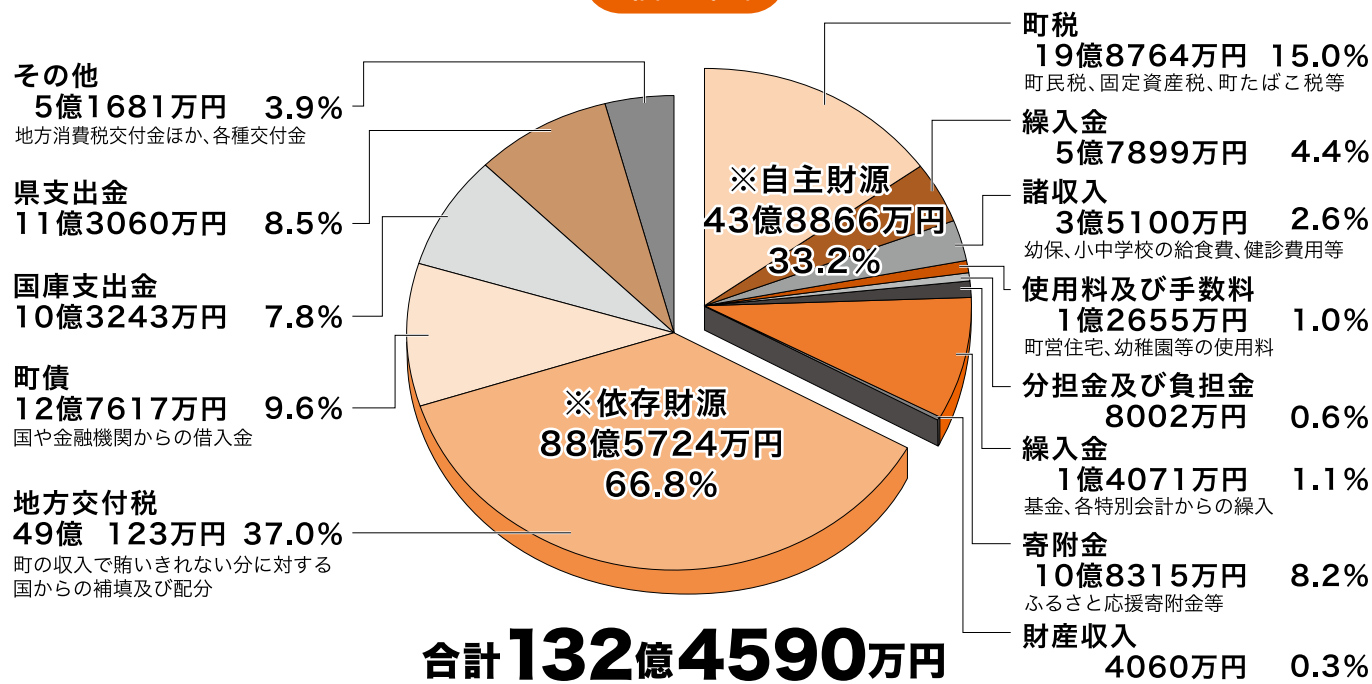
(質疑概要はP6へ)

貯金にあたる基金積立残高総額は、6年連続で増加し、52億9千146万円になりました。
町の借金にあたる町債は、前年度より、金額で約6千万円、減少しました。

収入

自主財源は、前年度より2千325万円増え、6年連続で増加しました。この増加は、町税が税額、収納率ともアップしたことで、ふるさと応援寄附金が10億8千262万円と大きく伸びたことが主な要因です。
しかし今後は、国からの通知もあり、ふるさと応援寄附金に影響が出ることが考えられます。

収入 (町民1人当たり 約61万円)



※ 自主財源：町が自主的に収入する財源をいう
※ 依存財源：国や県から定められた額を収入する財源をいう

平成29年度 決算

自主財源増え黒字

特別 会計

全事業黒字決算 賛成全員で認定

国民健康保険	収入	31億3289万円
	支出	30億308万円
後期高齢者医療保険	収入	2億4432万円
	支出	2億4053万円
介護保険	収入	26億7822万円
	支出	26億1740万円
農業集落排水事業	収入	2億6911万円
	支出	2億6545万円
下水道事業	収入	8億1289万円
	支出	7億9637万円
風力発電事業	収入	6690万円
	支出	5802万円
水道事業(収益的収支)	収入	5億9376万円
	支出	5億8540万円
ガス事業(収益的収支)	収入	5億3293万円
	支出	4億8296万円

支出

支出は、前年度より、1億746万円増加しました。公債費が、2億3千283万円増加したことが主な要因となりました。



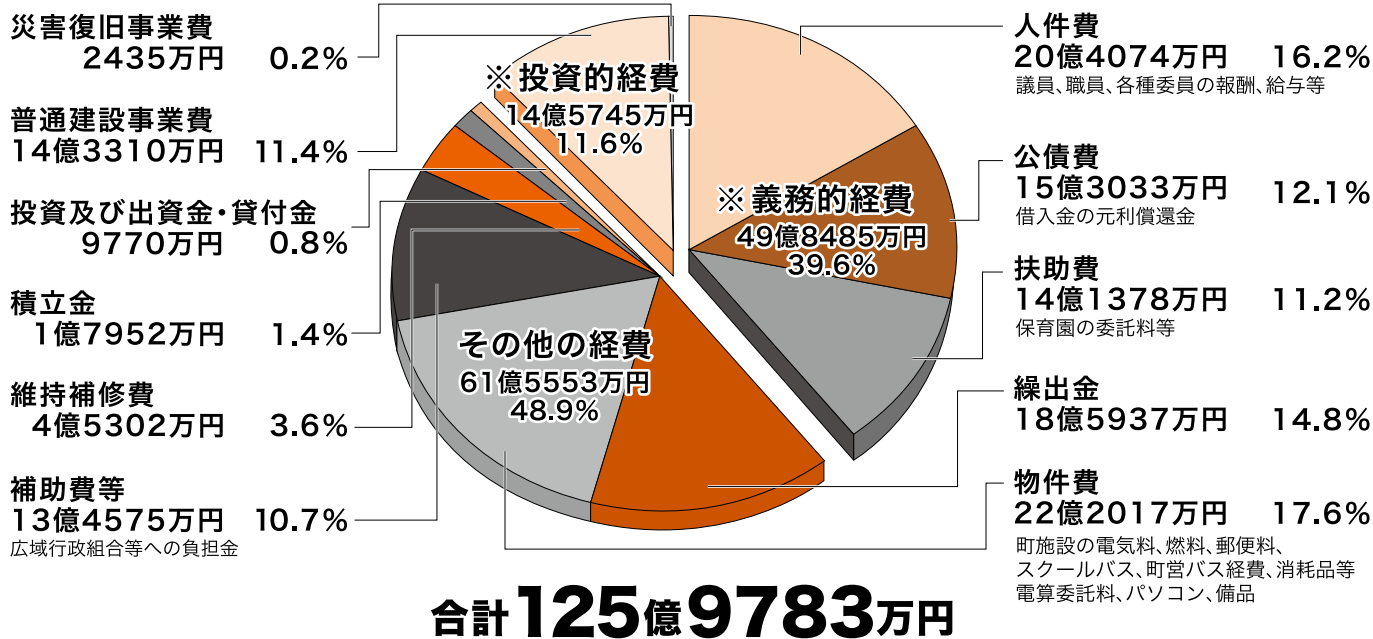
伝統は受け継がれる

借金残高

町民1人当たり67万円
総額146億5581万円

支出

(町民1人当たり 約58万円)



※ 投資的経費：施設など、財産として将来に残るものにかかる経費をいう
 ※ 義務的経費：支出が義務付けられ、任意に節減できない経費をいう

検証して未来に生かす

平成29年度

決算特別委員会

審査日 9月11日、12日、13日
一般会計と特別会計8件 原案どおり認定



委員長 上野幸美
副委員長 五十嵐啓一

決算特別委員会

決算特別委員会では、予算が適正に執行されたか審査し、行政効果や経済効果を精査します。

総務・文教・厚生部門

12人中8人質問
35問中11問掲載



財政

誤解を与える文章
訂正せよ

工藤 範子委員

問

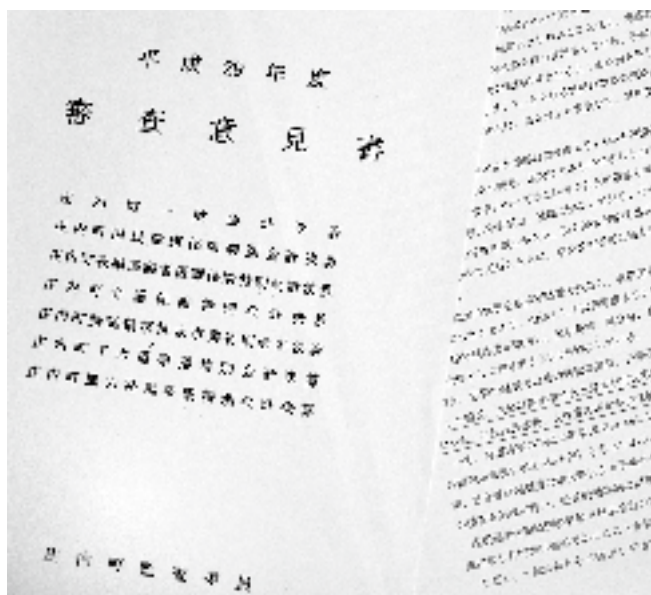
監査決算報告書は、会計の健全度を示す経常収支比率が、29年度は28年度より4%高い96・9%で、公債費(借金)と人件費の増加が上げ要因であるとした。そのう

ない。

町長

決算統計上の表記でやむを得

ち、人件費は28年度より5・7%増加となっているが内容は臨時・パート職員の賃金を物件費から人件費に移行した措置が要因で、実際の人件費は高騰していない。報告書は内容の精査を省いており、町民に誤解を与える不適切な文章で訂正すべきでないか。



1年間の成果が凝縮

資金運用の成果は
どうか

小林 清悟委員

問 マイナス金利政策のなか、基金運用で2千100万円の利子を得ているが、要因は何か。

町長 前年度と比べ定期預金の利子は減額したが、有価証券の配当金が、大幅に増額したためである。

問 本町の基金（預金）は、平成29年度末で、有価証券を合わせ60億円である。一方、町債の合計は146億6千万円だが、後に国から支援される金額を差し引いた借金額はいくらか。

町長 自前返済する借金は、約39億7千万円であり、借金よりも預金を上回っている。

ふるさと納税

経営改善せよ

小野 一晴委員

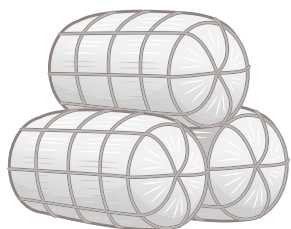
問 イグゼアまるめの経営は、好調なふるさと納税の返

礼品を扱う収益に支えられている。今のうちに経営改善するべきではないか。

町長 部門別に経営改善するように努力している。



有利な起債もあるけれど

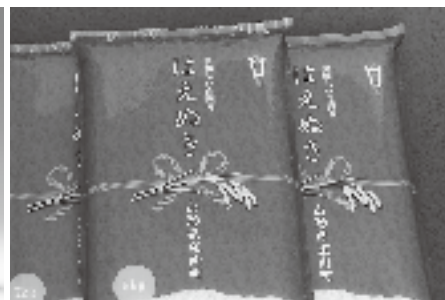


委託先監査を
実施せよ

加藤 将展委員

問 町は従来から、ふるさと納税の業務委託先の収益の実態調査には関与できないとしてきたが、この会社は町の出資法人（39・7%）であり、法律に基づき収益や業務実態につき監査すべきではないか。

町長 今後、担当課の定例監査を実施した上で、必要とあれば、この委託先についても監査を実施したい。



寄附金に貢献した名産品

返礼品
調達額変更したのか

國分 浩美委員

問 ふるさと応援寄附金は、総務大臣通知に沿って、返礼品調達額は29年度から30%程度に変更したのか。

町長 今年度から対応している。29年度の11億円弱から減少すると思うが新たなPR方法等を考え、周知していく。

保健福祉

誰が受賞したのか

澁谷 勇悦委員

問 保健福祉課の在宅高齢者支援事業の「成果」欄に「厚生労働省老健局長優良賞を受賞」との記載がある。これは町が受けたのか。

町長

この賞は「多機能型交流拠点運営支援事業」を実施している「JAあまるめ地域支援事業（しゃんしゃん）」が受けたものである。

予算を使いきれ

長堀 幸朗委員

問

献血事業費の予算11万円、決



献血は社会貢献

算5万円。献血量は十分なのか。予算を使いきって、献血者にもっとよくしてもらえないか。

町長

節約した結果である。今以上に献血者に対してよくする予定はない。献血量はほぼ十分である。

移住

情報発信を強化せよ

加藤 将展委員

問

移住者を募るためのイベント参加やホームページの見直し等を行うべきではないか。

町長

これらを見直し、町外や県外への一層の情報発信を行いたい。

学校関連

愛康会を支援せよ

小野 一晴委員

問

児童保育を委託している愛康会の運営について、周辺施設と比較して、低賃金のため有資格職員を確保できず、今後の運営に支障が出るおそれがあると聞いているが、認識または対応しているのか。

町長

愛康会から現状は聞いています。今後対応していく。

庄総高支援を周知せよ

國分 浩美委員

問

29年度からの新事業となる資格取得支援については、利用者が想定より少なかった。対象となる資格の魅力を伝えるなど、すべきだがどうか。



放課後の温かい居場所

町長

想定より少ないが、褒賞を受けた生徒もいるので、利用が増える努力をする。

搬入板を改善せよ

石川 保委員

問

学校給食のため、材搬入のため、余目地域の小中学校で改修工事を行った。しかし、配送トラックのゲート形状に対応しきれず、3つの小学校で

手作り搬入板を使用している。安全確保のためにも、改善できないか。

町長

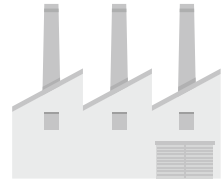
指摘のとおり、緊急措置として手作り搬入板を使用している。

施設の改修を見込んだ見積りも取ったが、多額の工事費が必要となる。教室へのエアコン導入も検討中であるため、大規模改修に合わせた対応としたい。

※ 多機能型交流拠点運営支援事業 空き店舗スペースで、高齢者との交流や介護予防などに活用する事業

産業建設 部門

12人中7人質問
22問中8問掲載



対策は敵を知ることから

農業

鳥獣被害防止せよ

齋藤 秀紀委員

問

鳥獣被害対策
実施隊とイノシシの習性等、被害対策について共通理解を図ることができたかあるか。イノシシは、3月出産と秋に少数出産とある。越冬方法は不明であるが生息数はどうか。対策の一つに山際に藪を作らないとある。農業委員会のパトロールではどうか。

町長

習性については、まとめている。生息数は、50〜60頭で子どもを入れて100頭くらいと見ている。遊休農地は、確認して指導している。

建設

補償の充実を図れ

阿部 利勝委員

問

京田川堤防除草の際、作業員の傷害保険の補償内容はどうか。作業員の高齢化にはどう対応しているか。

町長

死亡200万円、怪我については部位による補償金額となる。高齢化には、「安全第一」を呼びかけている。

執行率を高めよ

長堀 幸朗委員

問

住宅建築耐震改修事業費の予算185万円に対して、決算1千円をはじめとする執行率が低い事業がある。予算を使いきり、もっと改善すべきではないか。

町長

補助金申請がほとんどなかったからである。できるだけ改善する。

建設

狭い道路把握を急げ

澁谷 勇悦委員

問

建設課の道路台帳の整備等事業に「都市計画区域内の狭い道路における後退用地」を含めるべきではないか。

町長

この部分は道路扱いではないので出来ない。



高齢化 除草作業はどうなる

※道路台帳 道路施設台帳ともいい、道路管理者が作成する道路に関する基礎的な事項を示した台帳

商工観光

利用倍増はなぜか

阿部 利勝 委員

問 カートソレイユ最上川の事業実績で、バッテリー

カーの利用が昨年度から倍に伸びているが、要因は何か。

町長 カートソレイユ最上川への来

場者のみならず、他のイベントにも貸出している。

カートソレイユ最上川全国発信せよ

鎌田 準一 委員

問 8月の集中豪雨で施設が水没する被害にあった。自

主的に本町を訪れた全国のカート愛好者からは、整備等のボランティア支援を頂いた。利用者の施設に対する思いも感じる一方、管理団体の高齢化、施設の使用料等中心の収入では運営は厳しい。そこで全国のモータースポーツ愛好者も巻き込む参加型事業運営とし、特徴あるカート場にしてはどうか。

町長 指定管理者と話し合い、交流

人口拡大の観点や、インバウンドなど総合的な観点で考えていく。

北月山荘利用減の原因はなににか

五十嵐 啓一 委員

問 北月山荘の利用状況は、3年前の比較で入浴者で3

千人減、収入総額で220万円(18%)減となっているが原因は何か。

町長 利用者の高齢化に伴い、北月

山荘行きのバス利用者の減少と、70歳以上の福祉入浴利用券が10枚から、5枚に変更したことが原因と考えられる。

問 4年前、休憩

室の前にポイラー棟を建設し、眺望を妨げたことが利用客減少の一因ではないか。

町長 眺望はロビー

からも可能であり、利用客減少とは関係ない。



いつかはF1レーサー



利用者がこんなだったら



※ 福祉入浴利用券 平成28年までの入浴割引券200円10枚が、29年度より350円5枚に変更

特別会計

12人中4人質問
5問中3問掲載



- 国民健康保険
- 後期高齢者医療保険
- 介護保険
- 農業集落排水事業
- 下水道事業
- 風力発電事業
- 水道事業
- ガス事業

旧簡易水道

管理を強化せよ

加藤 将展委員

問 旧立谷沢北部簡易水道の取水ポンプに濁り水が入る事例が見られるほか、給水タンクの清掃は未実施だが、どう対応するのか。

町長

1～2年以内に濁り除去の方法、水源の変更等の抜本的な対策も検討する。タンク清掃は今年度を実施する。



国民健康保険

保険税条例
なぜ毎年改正か

長堀 幸朗委員

問 国民健康保険特別会計について、保険税条例が毎年のように一部改正されているのはなぜか。

町長

国が地方税を正しているため、合わせている。



旧立谷沢北部簡易水道 いつも ごくろうさまです

商工観光

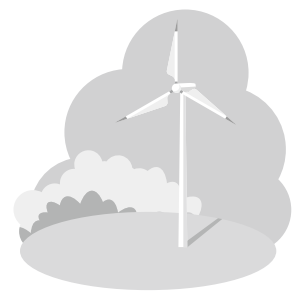
風車を廃止せよ

加藤 将展委員

問 町保有の風車は1基のみで、故障中である。もはや「風車の町」ではない。「収益を住民に還元できない風車事業は早急にあきらめるべきではないか。

町長

今後は風車のメリットや合理性等を考慮し対応を整理していく。



国際交流

コルサコフとの交流継続せよ

町長 継続は困難である



長堀 幸朗 議員

問

第二次庄内町総合計画に、1992年姉妹都市締結したロシア国サハリン州コルサコフ市との交流についての記述がない。第一次計画には記述があった。姉妹都市締結等は、町民のお金にかえられない財産である。(今年の日露交流年。記念切手も発売されている)

町長

コルサコフ市との友好関係については、余目町から合併後の庄内町に引き継がれ、その時点で第一次総合計画に盛り込まれている。その後、教育、文化、スポーツ交流を主としながら、子どもたちを中心に相互交流を実施していたが、同市との交流に尽力していただいた方々が亡くなられたことなどが要因となり、事業継続が困難になった。なお、国際交流の取り組みについては、国際交流協会の支援を継続し、国際理解等の各種事業を実施している。



かつては、こんな文化交流も

子育て応援住宅

一戸建てに変更せよ

町長 今後あり得る



五十嵐啓一 議員

問

子育て応援住宅設置及び管理条例設定にあたり、入居条件を町外からの移住者に限定することを条例に明記すべきである。

町長

入居条件は、基本的な部分として、条例案で町内外からの受け入れとしている。公募の際には、期間を設定し、町外の方を対象に募集を行うことも考えられる。また、魅力ある住環境として入居者が同じ課題等を共有し、情報交換

子育て世代の家族が一番望んでいるのは、子供を伸び伸び育てる住環境である。そのため、町外から移住したいと思われる魅力ある住宅建設が必要である。計画されている16戸のアパート形式でなく、8棟の一戸建て住宅に変更すべきであるがどうか。



一戸建てだといいね

住宅地

水害を防止せよ

町長 現場を精査する



阿部 利勝 議員

問

8月5日から6日にかけての豪雨で、第一学区、宮曾根集落内の排水路に、土のう積みを行ったが、集落内に水があふれ出て、一時通行止めとなった。住宅地を水害から守るためにも集落内排水路の路肩に、客土^{*}を行うべきではないか。

また、8月は3度も消防ポンプ車、十数台で排水作業を夜間も行っていている。消防団員の健康と住民の安心安全を考えれば、もう一台排水ポンプ車の設置を考慮すべきではないか。

町長

宮曾根排水路は、最上川土地改良区の管理だが、仮に排水路の路肩に客土を行うことになれば排水路の水が住宅地に逆流する可能性や堤防決壊のリスクが増大することが考えられることから、十分な現場の精査が必要と考えている。

また、宮曾根排水路から京田川への強制排水のための改造や、国営事業における排水対策の計画もあることから、新たな排水ポンプ車を設置する予定はない。



危機に備えよ

カラス対策

力を入れよ

町長 実態調査を予定している



小林 清悟 議員

問

本町では、毎年夏になると市街地において、カラスの群れによるフン害が問題になっていて。市街地の電線にカラスが群がり、真下の路上にはフンが散乱し、時には路上がフンで埋め尽くされ、天気の良い日には異臭を放つこともあり、住民を悩ませている。

年々ひどさが増すカラスのフン害。本町では、鳥獣被害防止対策協議会が設立されたことでもあり、駆除したり、電線にカラスよけの装置を取り付けたり

と、本腰を入れて対応してはどうか。

町長

カラス対策については、何十年も前から問題になっている。抜本的な対策が取れない状況にあつたかと考えている。今年度、被害防止に関し、カラスの実態調査や被害調査等を実施する予定

定としており、その結果を踏まえ、駆除することも含め検討したいと考えている。また、電線に関する対策については、過去に東北電力より対策を講じていただいた経過はあるが、一時的な効果にとどまっております。町内全域での実施には至っていない。



本当に困っています

避難勧告

検証し今後を生かせ

町長 今後検証する



上野 幸美 議員

問

集中豪雨で最
上川・京田川の
危険水位を超え、避難
勧告が発令されたが実
際の避難者は少なかっ
た。それで良いのか。
避難所の設置場所、避
難者への備え安全性等
は適正だったのか。検
証し今後を生かすべき
でないか。

自主防災組織の取り
組みの半分は、初期消
火訓練等とどまってい
る。具体的な認識は
重要で、現在の最上川
流域ハザードマップに、
京田川流域を明記し見
直すなど危険度を住民
に周知すべきでないか。

町長

このたびの集
中豪雨による避
難者等、町民への対応
は、国土交通省や県、
気象台との連絡を取り
ながら対応をしたとこ
ろであり、高齢者や体
の不自由な方々の避難
から始まり、各段階を取
り進め、各段階を取
り進め、各段階を取

つたと考えている。

一部の避難場所につ
いては、想定以上の避
難者となったため、新
たな場所を確保する状
況もあった。また、京
田川を想定したハザード
マップは、その想定
が変わったため、来年
度により直しとなる。



早めの避難 ひと安心

エアコン

設置急げ

教育長 整備検討している



工藤 範子 議員

問

この夏は、記
録的な猛暑とな
り、学校の授業や行事
の最中に熱中症などで
倒れる子どもたちが全
国で相次いだ。教室に
一刻も早くエアコンの
設置が求められるので
はないか。また、特別
教室（理科室、音楽室、
図書室、視聴覚室、コ
ンピューター室）にも
必要である。

保育園、幼稚園も設
置されていない箇所
は、設置すべきである。
年次計画を立てて、
計画が出来上がったら
公表すべきではないか。

教育長

現在、小中学
校の普通教室へ
の空調設備の設置に向
け、取り組みを進めて
おり、2年から3年を
めどに整備検討を行っ
ている。幼稚園は、預
かり保育の部屋を優先
的に設置し、引き続き
計画的な整備に努めて
いく。年次計画には、

町長

町立保育園の
うち、狩川保
育園は全保育室に、清川
保育園は一箇所の保育
室と午睡室にエアコン
を設置している。



教室にもエアコンが欲しいな

準中型免許取得

消防団員に支援せよ

町長 検討が必要である



國分 浩実 議員

問

消防団員の人手不足が深刻になるなか、昨年3月改正の道路交通法の影響により、若手団員がポンプ自動車(3・5t以上)を運転できない事例が発生している。まだ影響は少ないが、団員募集のネックになってきている。地方によっては既に問題となっている。

総務省消防庁では、本年度より、ポンプ自動車の運転に必要な準中型免許取得を支援した自治体に交付税措置がある。当町も支援すべきかどうか。

町長

消防ポンプ車の運転に必要な準中型免許の取得については、本町所有の車両および現団員の状況から、今すぐの課題となっていないものの、今後の消防団の人手不足対策や、若い団員の入団におけるリスクと捉えている。その対策として、免許取得に係る支援について、検討を行うっていく必要があると考えている。



もしもに備えて待機中

危機管理

初動 遅くないか

町長 反省点を感じる



加藤 将展 議員

問

集中豪雨のあった8月5日の午後には、酒田市で土砂災害警戒情報が発出され、災害対策本部が設置された。このころ、町長はある祝賀会に出席しており、早々に退席し、緊急対応に備えるべきではなかったか。

また、同日の夜8時頃に同警戒情報が鶴岡市と庄内町に出され、鶴岡市は直ちに対策本部を設置したものの、当町は翌朝となった。さらに、本部未設置のまま避難勧告等を出すなど、危機管理態勢に問題はなかったか。

町長

このたびの集中豪雨の際の対応として、災害対策本部設置の判断材料や情報のあり方、避難所開設のための事前準備や確認等マニュアルに無い部分で、安全をいかに優先させるかの判断には反省点を感じている。

今後は、さらに警戒や早めの避難などに気を配っていく必要があると考えている。



実は、ここ、田んぼです

※ 土砂災害警戒情報 大雨警戒(土砂災害)が発表されている状況で、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況時に、県と気象庁が共同で発表する警戒情報。

中心市街地 バス路線

目的別に変更せよ

町長 次の手を打つ



鎌田 準一 議員

問

町は、高齢者等のための中心市街地循環バスの運行を新たにしているが、町民にあまり浸透していない。町民目線からすればコース設定を、買い物コースと公共機関コースの目的別にするのが分かりやすい。さらに乗合場所に余目駅またはクラッセを加えJRとの連携も図るべきである。また、運行バスを商店PRのラッピングバスとし、冬季間の待合場所としての協力を得るなど、協働参画のもと利用促進を図るべきでないか。

町長

市街地循環バスの利用度は、非常に低いといわざるを得ない。その要因をしっかりと押さえたうえで、次の手を打たなければならぬと考えている。

コースの変更には、総合的な見直しが必要であり、交通計画の必

要性も検討しなくてはならない。

今後、高齢社会のなかでは、バス需要が高まってくると考えているが、利用しやすい環境の提供を含め、経費面での維持継続が可能なのかも含め、早急に検討しなければならぬ。



運転手さん ありがどの～

狩川保育園

駐車場整備せよ

町長 保護者用に確保したい



齋藤 秀紀 議員

問

3月定例会で、駐車場不足は、把握しているので検討するとの回答であった。課題は、駐車場不足のほかに、駐車場の配置による安全性、樹木との隣接、敷地内一方通行に対して逆走も見られる。また、冬期間では除雪、排雪による視界不良、職員の駐車場確保がある。これらの課題解決には、旧消防立川分署敷地整備と解体が良策ではないのか。冬期間前の対策として、また、来年度予算に対しての計画は、あるのか。

町長

狩川保育園の駐車場不足の解消として、降雪前の対応としては、現職員駐車場を保護者用として確保、さらには旧消防署わきの駐車スペースについて、除雪作業を実施し確保したいと考えている。さらには、

来年度予算による対応

として、保育所内の桜の木がある広場の整備による駐車場確保を検討している。

また、旧消防署の解体については、立川庁舎周辺の一体的な整備のなかで検討を加えていくこととなる。



望まれる安全な駐車場

教室 冷房化

早急に着手せよ

町長 予算確保に知恵を絞る



澁谷 勇悦 議員

問

同僚議員の答
弁で、2、3年

後を目途に冷房化を図りたいとのことであったが、以下の理由からもっと早期に実現すべきと思うがどうか。

一、異常な気温上昇にあること。一例（昭和35年と平成30年の7月比較・酒田）

平均気温3.7度、

最高気温4度の上昇

一、学校環境衛生基準の「小中学校の教室の望ましい温度」が、54年ぶりに「30度以下」が「28度以下」に改められていること。

町長

冷房化の早期実現については、子どもたちに良好な教育環境のなかで生活をしてもらうために、教育委員会とも話し合いを行い、町の予算が許す限り早い段階で、空調設備の整備を実施できればとの方向で検討を行っている。設備整

備の事業試算や国、県の支援を含め、町がどのようなメニューを利用し、有利に、いち早く、整備できるのかの知恵を絞っているところであり、最終的には町がどこまで予算を確保できるかだと考えている。



涼しくて勉強しやすいね

ゴミ収集

改善せよ

町長 方向性を示したい



小野 一晴 議員

問

立川地域でゴミステーション
拡張、増設の計画が多
くあるようだ。

堆肥センターが廃止されたことから、これまで別収集していた生ゴミを廃止し、余目地域と同じく燃えるゴミの日を週2回にすれば合理的に解決できると思うが、どうか。

町長

堆肥生産センターの廃止に伴う、これまで立川地域等で実施してきた生ゴミの回収方法の見直しについては、関係企業や関係課との調整を踏まえ、10月中に最終的

問

すでに住みや
すい地域づくり

な方向性を示したいと考えている。仮に、生ゴミの分別収集を廃止し、余目地域と同様に燃やすゴミの収集日を増やしていくことになった場合は、経費面でプラスになると考えている。

町長

地域づくり交付金が申請され、交付決定されたとのことだが、増設等しない場合は、次年度に繰り越してできると思うが、どうか。



この環境 なんとかしたい

町民と語る会を出前します

開催方法を見直します

平成21年度より「議会報告会」としてスタートし、平成25年度には現在の「町民と語る会」に名称を改め、今年度で10年目を迎えました。

多くみなさんから参加いただくために、15人の議員の機動力を生かします。

参加者実績

平成21年度～29年度

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	計	1地区あたり 平均参加者数
参加者数	121人	118人	96人	107人	121人	119人	102人	115人	86人	985人	16人

課題の改善

語る会への参加者が減少傾向にあります。そのため、いかに参加者を増やすのか、また、参加者の固定化が課題となっていました。そこで、開催方法を見直すことにしました。

見直し案

これまでは、町民のみなさんから会場へ足を運んでいただきましたが、これからは、議会が皆さんのところに直接うかがいます。

各団体との意見交換

これまでも定期的に主だった団体と意見交換を行っていましたが、

これからは、様々な団体に意見交換の呼びかけを行い、希望する団体には議会からうかがいます。

集落との意見交換

各集落へも呼びかけを行い、希望する集落には議会からうかがいます。

留意事項

見直しにあたり、希望する団体や集落以外の方が参加できるように考慮します。

実施時期

これまでは毎年5月に(町議選の年は10月

に)実施していましたが、開催方法の見直しにもない、相手方の希望日と議会側の日程調整が必要なことから、通年対応とします。

なお、詳細については、決まり次第お知らせします。

提言にむけ調査中

総務文教厚生常任委員会

受診率向上のために

調査目的

日本では、一生のうち2人に1人はがんになるおそれがあると言われている。

本町では、がん検診の受診率を高めるために、がん検診の無料化等を実施し、国の目標数値は達成している。

これまで、さらなる受診率向上を目指し町民に勧奨してきたが、その伸び率は頭打ちになっている。そこで、

受診率を向上させるために、新たな施策について調査することとした。

期 間 平成30年10月3日～4日
期 間 平成30年10月24日～25日
調査地 国立がん研究センター
八王子市役所



施設型農業の推進について

産業建設常任委員会

農業所得アップにむけて

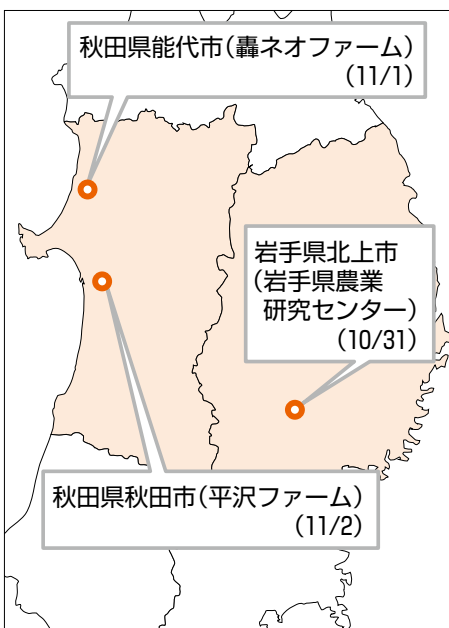
調査目的

人口の減少や農業政策の転換により、農業を取りまく環境が厳しくなっています。

本町は稲作を基幹作物としていますが、周年化のためには花き、野菜栽培等の推進が求められています。農

業所得向上のため施設型農業について調査することにしました。

期 間 平成30年10月31日～
平成30年11月2日
調査地 岩手県北上市
秋田県能代市・秋田市



ち か み ち
町政を知る近道

9月定例会の傍聴者は35人



子どもたちも傍聴しています

議場で傍聴した皆さんからいただいたアンケートより抜粋して掲載しました。ー議場に足を運んで下さいー

9月6日
一般質問

議会に関心を

・傍聴者が少ないので、特に自治会長さんが議会に関心を持つ為にも、積極的に参加されるよう事務局より呼びかけましたほう

が良い。最低でも5人くらいは来て欲しい。

対話が大切

・議員の皆さんには、発言したから、広報に載せたからにとどまらず、町民との対話に努力して欲しい。

9月13日
決算特別委員会
しっかり討論を

・どちらも質問答弁に熱が入っていたようだが、町民の代表であり町を良くしていくために納得いくまで討論してほしい。議員も町民の代表です、周りの意見を広く聴取して議会に提出してください。

・傍聴者のためにあるのでなく、町民のために議会があるので堂々と議論を戦わせて頂きたい。

・質問をしているとき、笑いながら話している人々もいてこれはないと思った。

・質問に係長が答弁していたが、あまり答弁の中身がないように思われる分、町長が答弁している。課長の出番が少ない。それにしても議員さんの人数が少なくなつたと感じた。

がんばってほしいね。

緊張感

・決算委員会をはじめ傍聴した。議員の皆様がよく勉強していると思った。

・議会の緊張と熱意が伝わった。

・議会会場が涼しく感じたのは私だけでしょか。ずいぶん涼しい環境のなかで議論しているのだなあと。お互いYesとはいえない立場がひしひしと伝わってきたので、議会に足を運んでよかった。

・前日も傍聴しましたが、質問が同じ人のため、他の人、別のも聞いてみたいと思った。

分かりやすく

・委員長に対する答弁は簡潔明瞭にし、言い訳がましいことは言わなくても良い。質問者

も要点をまとめて問うこと。質問者には町に対する遠慮があるので。

その他

・議会の質問が良かったと思ったのと、賛同できないところがあつた。

・町の説明がよくわからなかった。

・質問が良かった。参加して良かった。

9月18日 議案等審議

時間を有効に

・何度も議案名をいう必要があるのか。資料をもらってわかっているのだから議案○号だけで議論できるのでないだろうか。でないと思ふ。

生声ひろば

消防
操法大会
団員のご家族に
インタビュー

消防団のパパはカッコイイ

庄内町消防団には13分団があり、消防団員は929人で、このうち女性団員も6人が活躍しています。

消防団員は、非常勤特別職の地方公務員として、他の職業に従事しながら、地域の安全安心のために活動しています。そして、火災、水害、地震等の非常時

に備え、いつでも必要な行動ができるようにしています。5月の春季消防演習、7月の操法大会などを通じて、

消防活動の手順や技術を学んでいるほか、水害時に備えて、水防訓練も実施しています。今回は、7月15日に役場西庁舎駐車場で行われた操法大会で、団員の家族にインタビューしまし

た。



パパがんばれ

答

頑張ってくれて、たのしく思いました。(奥様)

問

お父さんの活躍、いかがでしたか。

パパ、チヨ〜カッコよかったです！

(娘さん)



いざ出動

OBの方にも

お聞きしました

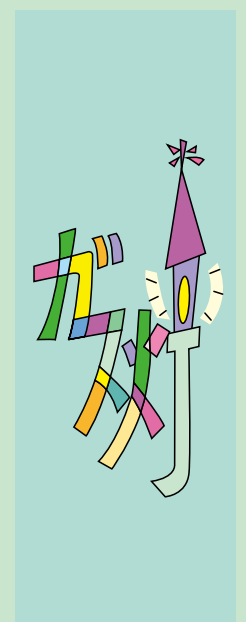
問

今の消防団に期待することは？

答

なり手不足の中、地域のために頑張ってくれて、ありがたい。

操法大会での若い消防団員のキビキビとした動作や、その雄姿を、できるだけ多くのご家族の皆さんや地域の方々に見ていただいで、一人でも多く、消防団のファンになってもらいたいと思います。



▼今定例会は、6月の町議会議員選挙後初めての定例会であり、少し緊張し張り詰めた空気に新鮮さを感じた。

▼議案審議では、町から提出された子育て応援住宅の設置管理条例を否決した。

▼町は、12月定例会に再提出するべく、各議員からの疑問を精査しているようだ。

年末は、町の未来にむけて両者とも仕切り直しである。

議長 吉宮 茂

▼議員からは、様々な質問が出されたが、町の答弁は、多くの議員を納得させることはできなかつた。

▼議員からは、様々な質問が出されたが、町の答弁は、多くの議員を納得させることはできなかつた。

▼議員からは、様々な質問が出されたが、町の答弁は、多くの議員を納得させることはできなかつた。

▼議員からは、様々な質問が出されたが、町の答弁は、多くの議員を納得させることはできなかつた。

発行人 議長 吉宮 茂
議会広報常任委員会 委員長 國分 浩実
委員長 澁谷 勇悦
副委員長 鎌田 準一
委員 加藤 将展
委員 阿部 利勝
委員 長堀 幸朗